

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of

Kazushige AIYAMA

Serial No. NEW : Attn: APPLICATION BRANCH

Filed December 24, 2003 : Attorney Docket No. 2003_1853A

VOLATILIZING APPARATUS

CLAIM OF PRIORITY UNDER 35 USC 119

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

THE COMMISSIONER IS AUTHORIZED
TO CHARGE ANY DEFICIENCY IN THE
FEES FOR THIS PAPER TO DEPOSIT
ACCOUNT NO. 23-0975

Sir:

Applicant in the above-entitled application hereby claims the date of priority under the International Convention of Japanese Patent Application No. 2002-374901, filed December 25, 2002, as acknowledged in the Declaration of this application.

A certified copy of said Japanese Patent Application is submitted herewith.

Respectfully submitted,

Kazushige AIYAMA

By


Charles R. Watts
Registration No. 33,142
Attorney for Applicant

CRW/jmj
Washington, D.C. 20006-1021
Telephone (202) 721-8200
Facsimile (202) 721-8250
December 24, 2003

538669 495

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年12月25日
Date of Application:

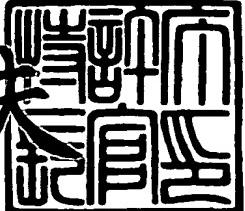
出願番号 特願2002-374901
Application Number:

[ST. 10/C] : [JP 2002-374901]

出願人 株式会社白元
Applicant(s):

2003年12月5日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫


出証番号 出証特2003-3100650

)

【書類名】 特許願
【整理番号】 MI14P114
【あて先】 特許庁長官殿
【発明の名称】 撥散器
【請求項の数】 5
【発明者】
【住所又は居所】 東京都台東区東上野2丁目21番14号株式会社白元内
【氏名】 相山 一茂
【特許出願人】
【識別番号】 000153719
【住所又は居所】 東京都台東区東上野2丁目21番14号
【氏名又は名称】 株式会社 白元
【代理人】
【識別番号】 100080838
【住所又は居所】 東京都渋谷区恵比寿南2丁目28番1号フェニックス大
木302
【弁理士】
【氏名又は名称】 三浦 光康
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 065456
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9909689
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 撥散器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 容器本体と、この容器本体に開放できるよう開放方向に付勢されて取付けられた開閉蓋と、この開閉蓋を閉状態に前記容器本体に係止する係止具と、一端部が前記容器本体内に固定され、他端部が前記開閉蓋の内壁面に固定された、消臭剤、芳香剤、防虫剤等の揮散薬剤が保持された積層ハニカム状の揮散体とからなることを特徴とする揮散器。

【請求項 2】 容器本体と、この容器本体に開放できるよう開放方向に付勢されたヒンジ部材を介して取付けられた開閉蓋と、この開閉蓋を閉状態に前記容器本体に係止する係止具と、一端部が前記容器本体内に固定され、他端部が前記開閉蓋の内壁面に固定された、消臭剤、芳香剤、防虫剤等の揮散薬剤が保持された積層ハニカム状の揮散体とからなることを特徴とする揮散器。

【請求項 3】 容器本体と、この容器本体に開放できるよう開放方向に付勢されて取付けられた開閉蓋と、この開閉蓋を閉状態に前記容器本体に係止する係止具と、一端部が前記容器本体内に固定され、他端部が前記開閉蓋の内壁面に固定された、消臭剤、芳香剤、防虫剤等の揮散薬剤が保持された積層ハニカム状の揮散体と、この揮散体の開放時に少なくとも一部の外周部を覆う積層ハニカム状のカバーボディとからなることを特徴とする揮散器。

【請求項 4】 容器本体と、この容器本体に 230 度から 330 度開放できるよう開放方向に付勢されて取付けられた開閉蓋と、この開閉蓋を閉状態に前記容器本体に係止する係止具と、一端部が前記容器本体内に固定され、他端部が前記開閉蓋の内壁面に固定された、消臭剤、芳香剤、防虫剤等の揮散薬剤が保持された積層ハニカム状の揮散体とからなることを特徴とする揮散器。

【請求項 5】 容器本体と、この容器本体に開放できるよう開放方向に付勢されたダンパー付きヒンジ部材を介して取付けられた開閉蓋と、この開閉蓋を閉状態に前記容器本体に係止する係止具と、一端部が前記容器本体内に固定され、他端部が前記開閉蓋の内壁面に固定された、消臭剤、芳香剤、防虫剤等の揮散薬剤が保持された積層ハニカム状の揮散体とからなることを特徴とする揮散器。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は消臭剤、芳香剤、防虫剤等の揮散薬剤を揮散させることができる揮散器に関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来、芳香剤、消臭剤等の薬剤を積層ハニカム状の揮散体に保持された揮散体が提案されている。また、両端部が支持板に固定された積層ハニカム状の揮散体に常温揮散性の殺虫性化合物が保持された防虫剤が提案されている。

【0003】

[特許文献] 特開平9-308421号公報

【0004】**【発明が解決しようとする課題】**

従来の積層ハニカム状の揮散体では容器に収容されておらず、単に開放状態へ移行させることができるので、芳香剤、消臭剤等の薬剤に触れてしまうおそれがあった。

また、防虫剤は揮散体を開放状態にする場合に、両端部の支持板を持って開放しなければならず、作業しづらいとともに、該作業時に殺虫性化合物が保持された揮散体に直接指先が触れやすく、指先に刺激を与えたり、皮膚刺激性が低い薬剤を使用しても指先を汚したりという欠点があった。

【0005】

本発明は以上のような従来の欠点に鑑み、係止具を解除することにより、自動的に開放状態となるようにして、揮散薬剤が塗布あるいは保持された積層ハニカム形状の揮散体に指先等が触れることなく、安全で、楽に取り扱うことができる揮散器を提供することを目的としている。

【0006】

本発明の前記ならびにそのほかの目的と新規な特徴は次の説明を添付図面と照らし合わせて読むと、より完全に明らかになるであろう。

ただし、図面はもっぱら解説のためのものであって、本発明の技術的範囲を限定するものではない。

【0007】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明は容器本体と、この容器本体に開放できるよう開放方向に付勢されて取付けられた開閉蓋と、この開閉蓋を閉状態に前記容器本体に係止する係止具と、一端部が前記容器本体内に固定され、他端部が前記開閉蓋の内壁面に固定された、消臭剤、芳香剤、防虫剤等の揮散薬剤が保持された積層ハニカム状の揮散体とで揮散器を構成している。

【0008】

【発明の実施の形態】

以下、図面に示す実施の形態により、本発明を詳細に説明する。

【0009】

図1ないし図9に示す本発明の第1の実施の形態において、1は消臭剤、芳香剤、防虫剤等を常温揮散させることができる本発明の揮散器で、この揮散器1は四角浅皿状の容器本体2と、この容器本体2の後端部に常時230°～330°開放できるように付勢されたヒンジ部材3を介して取付けられた開閉蓋4と、この開閉蓋4を閉状態に前記容器本体2に係止する係止具5と、一端部が前記容器本体2内に接着剤等で固定され、他端部が前記開閉蓋4の内壁面に接着剤等で固定された、消臭剤、芳香剤、防虫剤等の常温揮散薬剤6が保持された積層ハニカム状の揮散体7とで構成されている。

【0010】

なお、積層ハニカム状の揮散体7に保持させる揮散薬剤6は噴霧、塗布、含浸、浸漬等によつて行つても良い。

また、積層ハニカム状の揮散体7の両端部は接着剤等で前記容器本体2内や前記開閉蓋4の内壁面に固定する以外に係止具や支持具を用いて着脱可能に取付けても良い。

【0011】

揮散薬剤6としては、常温揮散性または加温揮散性の薬剤が用いられる。

ここで、本発明でいう常温揮散性薬剤とは、最終的に得た揮散器が使用される場所の雰囲気を人为的に加熱しなくとも当該揮散器が使用される雰囲気温度下で揮散する薬剤を意味し、加温揮散性薬剤とは、最終的に得た揮散器が使用される場所の雰囲気においては適当な加熱手段により加熱しないと揮散しない薬剤を意味する。

なお、常温の意味は、室内温度の意味合いであって、冷蔵庫あるいは冷凍庫内の雰囲気下で使用される場合には、その冷蔵庫あるいは冷凍庫内の低温であっても揮散する薬剤も含むものである。

目的とする揮散器の用途に応じて、例えば、常温揮散性または加温揮散性の芳香剤、消臭剤、防虫剤、殺虫剤、殺菌剤、鮮度保持材、空気清浄剤等が用いられる。

【0012】

芳香剤や消臭剤の具体例としては、ベンズアルデヒド、 α -ピネン、ゲラニオール、シトロネラール、リナロール、リモネン、メントール酢酸リナリル、アミルシンナミックアルデヒド、アンスラニン酸メチル、イソオイゲノール、カプロン酸アリル、酢酸イソブチル、酢酸ベンジル、サリチル酸イソアミル、シトラール、デシルアルデヒド、ヒドロキシシトロネラール、酢酸イソアミル等を成分とするものや、芳香消臭効果のある植物精油、例えば、ビターアーモンド油、ヒノキ油、ナツメグ油、ゼラニウム油、ラベンダー油、ライム油、ペパーミント油、ベチバー油、スウィートオレンジ油、タイム油等が挙げられる。

【0013】

防虫剤や殺虫剤の具体例としては、 α -ピネン、オイゲノール、ツヨン、チモール、ヒノキチオール、シンナミックアルデヒド等を成分とするものや、防虫効果または殺虫効果のある植物精油、例えば、ナツメグ油、チョウジ油、セージ油、タイム油、ラベンダー油、バジル油、ヒノキ油等が挙げられる。

【0014】

防虫効果または殺虫効果のある合成薬剤としては、ピレスロイド化合物、カーバメート化合物、有機リン系化合物、DEET (N, N-ジエチルm-トルアミド) 等の種々の薬剤が用いられる。

【0015】

ピレスロイド化合物としては、アレスリン（d 1-3-アリル-2-メチル-4-オキソ-2-シクロ pentenyl d 1-シス/トランス-クリサンテマート）、ピナミンフォルテ（d 1-3-アリル-2-メチル-4-オキソ-2-シクロ pentenyl d -シス/トランス-クリサンテマート）、エキスリン（d -3-アリル-2-メチル-4-オキソ-2-シクロ pentenyl d -トランス-クリサンテマート）、レスメトリン（(5-ベンジル-3-フリル)メチル d -シス/トランス-クリサンテマート）、エトック（(+)-2-メチル-4-オキソ-3-(2-プロピニル)-2-シクロ pentenyl (+)-シス/トランス-クリサンテマート）、フタルスリン（(1, 3, 4, 5, 6, 7-ヘキサヒドロ-1, 3-ジオキソ-2-イソインドリル)メチル-d 1-シス/トランス-クリサンテマート）、ネオピナミンフォルテ（1, 3, 4, 5, 6, 7-ヘキサヒドロ-1, 3-ジオキソ-2-イソインドリル)メチル-d -シス/トランス-クリサンテマート）、フエノトリン（3-フエノキシベンジル-d 1-シス/トランス-クリサンテマート、ペルメトリン（3-フエノキシベンジル-d 1-シス/トランス-3-(2, 2-ジクロロビニル)-2, 2-ジメチル-1-シクロプロパンカルボキシラート）、エンペントリン（1-エチニル-2-メチル-2-ペンテニル d 1-シス/トランス-クリサンテマート等が用いられる。

【0016】

カーバメート化合物としては具体的には、フエノブカーブ、カルバリル、キシリルカーブ、エチオフエンカーブ、メトルカーブ、プロメカーブ、プロポキサー等が用いられる。

【0017】

有機リン化合物としては具体的には、クロルピリホス、シアノホス、ダイアジノン、ジクロルホス、フェニトロチオン、フエンチオン、マラチオン、ピリミホスメチル、プロチオホス、サリチオン、テトラクロルビンホス、トリクロルホン、プロモホス、プロペタンホス等が用いられる。

【0018】

殺菌剤としては、次亜塩素ナトリウム、オルトフェニルフェノール、塩化ベン

ザルコニウム、ナフテン酸亜鉛、アルコール、アリルイソチオシアネート、チモール等が用いられる。

【0019】

鮮度保存剤としては、イソプロピリジンーアミノオキシ酢酸-2-メトキシ-2-オキソエチルエステル、チオ硫酸銀またはチオスルファト銀錯塩、アリルイソチアシアネート、シスプロペニルホスホン酸等が用いられる。

【0020】

前記積層ハニカム状の揮散体7の製造方法は、特に制限はなく、好ましくは、紙状材等に等間隔で筋状に接着剤を塗布して紙状材等を積層し、その積層した紙状材等に先ほどと半ピッチずらして等間隔で筋状に接着剤を塗布して次の紙状材等を積層し、を繰り返し、任意の厚みの積層ハニカム状物を得る工程と、揮散性薬剤を前記積層ハニカム状物に含浸、浸漬等により保持させる工程と、前記積層ハニカム状物を任意の形状に型抜きにより切断する工程とで製造される。

型抜きにより切断すると、自由に形状を設計することができ、より装飾的な揮散体を製造することができる。

【0021】

前記ヒンジ部材3は図7および図8に示すように、前記容器本体2の一方の取付け部8に取付けられるケース体9と、このケース体9に回転可能に取付けられる、前記開閉蓋4の取付け部10に取付けられる回転軸11と、この回転軸11に一体形成された支持軸12と、この支持軸12に回転可能に取付けられる前記容器本体2の他方の取付け部13に取付けられる支持筒14と、前記ケース体9の内底面に一端部が係止され、他端部が前記回転軸11に係止された弾性力を付与するスプリング15と、前記ケース体9と回転軸11間および支持軸12と支持筒14間に必要に応じて充填される急激な開放を阻止するように抵抗を付与するグリース16とで構成されている。

【0022】

前記係止具5は図9に示すように、前記開閉蓋4の前面ほぼ中央部下面に下方へ突出するように形成された係止片17と、この係止片17と対応する部位の前記容器本体2に、該係止片17と着脱可能に係合する係合部18と、この係合部

18と前記係合片17との係合状態を押し圧によって解除できるように、前記容器本体2に取付けられた操作片19とで構成されている。

【0023】

上記構成の揮散器1は設置する場所に置き、係止具5の操作片19を押し圧して、容器本体2の係合部18と係合している開閉蓋4の係止片17との係止状態を解除すると、ヒンジ部材3の付勢力によって開閉蓋4が230°～330°より好ましくは250°～310°自動的に開放し、楽に開放できる。

なお、前記容器本体2あるいは前記開閉蓋4のどちらかの外面（設置対向面）に滑り止め部材を設けると180°を超えて立脚する際に、その滑り止め部材により支持されて立脚しやすくなる。

滑り止め部材は設置面との摩擦係数の高いものが用いられ、ゴムを用いるのが好ましい。

また、前記容器本体2あるいは前記開閉蓋4の外面には設置した際のガタ付きを防止するピンを設けておくのが好ましい。さらに好ましくはこのピンと滑り止め部材を兼用したものを設けるのが好ましい。

【0024】

この開閉蓋4の開放に連動して、積層ハニカム状の揮散体7は弧状に自動的に開放され、作業者の手の指先等が常温揮散薬剤6が塗布あるいは保持された揮散体7に触れることなく開放することができる。

また、揮散体7は密閉状態から開放状態へ移行することにより、230°～330°の弧状に開放する。このため、180°以上開放された場合には容器本体および開閉蓋の周縁部により立脚し、より立体的に開放されるので、開放面積が大きく、効率よく常温揮散薬剤6を揮散させることができるとともに、設置面積も小さくて良く、装飾的要素が強くなるため好ましい。

【0025】

【発明の異なる実施の形態】

次に、図10ないし図21に示す本発明の異なる実施の形態について説明する。なお、これらの本発明の異なる実施の形態の説明に当って、前記本発明の第1の実施の形態と同一構成部分には同一符号を付して重複する説明を省略する。

【0026】

図10ないし図12に示す本発明の第2の実施の形態において、前記本発明の第1の実施の形態と主に異なる点は、一端部が容器本体2内に接着剤等によって固定され、他端部が開閉蓋4の内壁面に接着剤等で固定された揮散体7の上部および両側部を覆う積層ハニカム状のカバーボディ20を用いた点で、このようなカバーボディ20を用いて構成した揮散器1Aにしても前記本発明の第1の実施の形態と同様な作用効果が得られるとともに、開放時や使用状態で誤って常温揮散薬剤6が保持された揮散体7に触れるのを確実に防止することができる。

また、常温揮散薬剤6を保持した積層ハニカム状揮散体7と、その積層ハニカム状揮散体7を覆う積層ハニカム状のカバーボディ20を異なる色にすることにより、装飾的にも優れ好ましい。

さらに、積層ハニカム状揮散体7と、積層ハニカム状のカバーボディ20と同じ材質で形成することなく、常温揮散薬剤6を保持される積層ハニカム状揮散体7は薬剤保持力の高い素材を用い、積層ハニカム状のカバーボディ20には保型力の強い（硬い）素材を用いるのが好ましい。

【0027】

図13および図14に示す本発明の第3の実施の形態において、前記本発明の第2の実施の形態と主に異なる点は、揮散体7の上部を覆うことができる積層ハニカム状のカバーボディ20Aを用いた点で、このようなカバーボディ20Aを用いて構成した揮散器1Bにしてもよい。

【0028】

図15および図16に示す本発明の第4の実施の形態において、前記本発明の第2の実施の形態と主に異なる点は、揮散体7の両側部を覆う積層ハニカム状のカバーボディ20B、20Bを用いた点で、このようなカバーボディ20B、20Bを用いて構成した揮散器1Cにしてもよい。

なお、揮散体7自体も1つであっても良く、複数個であっても良い。この複数個の場合には例えば、芳香剤を含浸させた揮散体1と、消臭剤を含浸させた揮散体1とをそれぞれ設けても良い。

また、複数個設ける設け方としては、特に制限がなく、並列に並べても良く、

内側、外側等のように設けても良い。内側、外側等のように設けた際には揮散薬剤の揮散性が異なるものを組み合わせることができ、外側には比較的揮散し難いもの、内側には揮散し易いものとすると、それぞれの薬効を同時に終了させることもできる

【0029】

図17および図18に示す本発明の第5の実施の形態において、前記本発明の第2の実施の形態と主に異なる点は、揮散体7の積層ハニカム状とカバ一体20Cの積層ハニカム状が異なるものを用いた点で、このように構成した揮散器1Dにしてもよい。

なお、本発明の実施の形態と逆の積層ハニカム形状の揮散体とカバ一体を用いてもよい。

【0030】

図19ないし図21に示す本発明の第6の実施の形態において、前記本発明の第2の実施の形態と主に異なる点は、円形状の容器本体2Aと開閉蓋4Aおよび揮散体7Aを用いるとともに、リング状のカバ一体20Dを用いた点で、このように構成した揮散器1Eにしてもよい。

なお、積層ハニカム状揮散体7Aの形状は特に制限はなく、円形、三角形状、不定形とする事ができる。

【0031】

なお、前記本発明の各実施の形態ではスプリング15を用いたヒンジ部材3について説明したが、本発明はこの構造に限らず、開閉蓋4、4Aを常時90°～330°自動的に開放することができるよう付勢することができるヒンジ部材であれば、コイルスプリング、トーションバー、油圧やエアーを用いたものであってもよい。

また、蝶番や薄肉部に形成されたヒンジ部と、常時90°～330°自動的に開放することができるよう付勢する付勢機構を別体に形成したヒンジ部材3を用いても良い。

前記本発明の各実施の形態では常温揮散薬剤6を用いるものに付いて説明したが、本発明はこれに限らず、加温揮散性薬剤を用いても良い。この加温揮散性薬

剤を用いる場合には、適当な加熱手段を組み合わせれば良く、例えば、使い捨てカイロのような発熱体を容器本体に取付けても良い。

さらに、揮散した薬剤が室内に拡散するように適当な拡散手段を組み合わせても良い。例えば、扇風機のようなファン式拡散手段を取付けても良い。

【0032】

【発明の効果】

以上の説明から明らかなように、本発明にあっては次に列挙する効果が得られる。

【0033】

(1) 容器本体と、この容器本体に開放できるよう開放方向に付勢されて取付けられた開閉蓋と、この開閉蓋を閉状態に前記容器本体に係止する係止具と、一端部が前記容器本体内に固定され、他端部が前記開閉蓋の内壁面に固定された、消臭剤、芳香剤、防虫剤等の揮散薬剤が保持された積層ハニカム状の揮散体とで構成されているので、係止具を解除することによって、開閉蓋を自動的に開放させることができるとともに、積層ハニカム状の揮散体を弧状に開放することができる。

したがって、揮散薬剤が塗布あるいは保持された揮散体に触れることなく使用状態にでき、安全に取り扱い使用することができる。

【0034】

(2) 前記(1)によって、安全で、楽に使用状態に設定することができる。

【0035】

(3) 前記(1)によって、開閉蓋を 180° 以上回動できるように設定することにより、揮散体の開放面積を大きく設定できる。

したがって、効率よく揮散薬剤を揮散することができる。

【0036】

(4) 請求項2も前記(1)～(3)と同様な効果が得られる。

【0037】

(5) 請求項3も前記(1)～(3)と同様な効果が得られるとともに、カバー体によって、より確実に揮散薬剤が保持された揮散体に触れるのを防止でき、よ

り安全に取り扱い使用することができる。

【0038】

(6) 請求項4も前記(1)～(3)と同様な効果が得られるとともに、230°～330°に開放角度が設定されるため、さらに開放面積を広くすることができるとともに、揮散器の設置面積をコンパクトにすることができる。

【0039】

(7) 請求項5も前記(1)～(3)と同様な効果が得られるとともに、係止具を解除するのみで、揮散薬剤が保持された揮散体に触れることなく自動的に揮散体を積層状態から開放状態へ移行することができるため、さらに安全に、楽に使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施の形態の使用状態の平面図。

【図2】本発明の第1の実施の形態の使用状態の正面図。

【図3】本発明の第1の実施の形態の不使用状態の正面図。

【図4】本発明の第1の実施の形態の不使用状態の平面図。

【図5】図3の5-5線に沿う断面図。

【図6】図4の6-6線に沿う一部破断断面図。

【図7】本発明の第1の実施の形態のヒンジ部材の正面図。

【図8】図7の8-8線に沿う断面図。

【図9】本発明の第1の実施の形態の係止具の説明図。

【図10】本発明の第2の実施の形態の使用状態の平面図。

【図11】本発明の第2の実施の形態の使用状態の正面図。

【図12】図10の12-12線に沿う一部省略断面図。

【図13】本発明の第3の実施の形態の使用状態の平面図。

【図14】図13の14-14線に沿う一部省略断面図。

【図15】本発明の第4の実施の形態の使用状態の平面図。

【図16】図15の16-16線に沿う一部省略断面図。

【図17】本発明の第5の実施の形態の使用状態の平面図。

【図18】図17の18-18線に沿う一部省略断面図。

【図19】本発明の第6の実施の形態の使用状態の正面図。

【図20】本発明の第6の実施の形態の不使用状態の平面図。

【図21】図19の21-21線に沿う断面図。

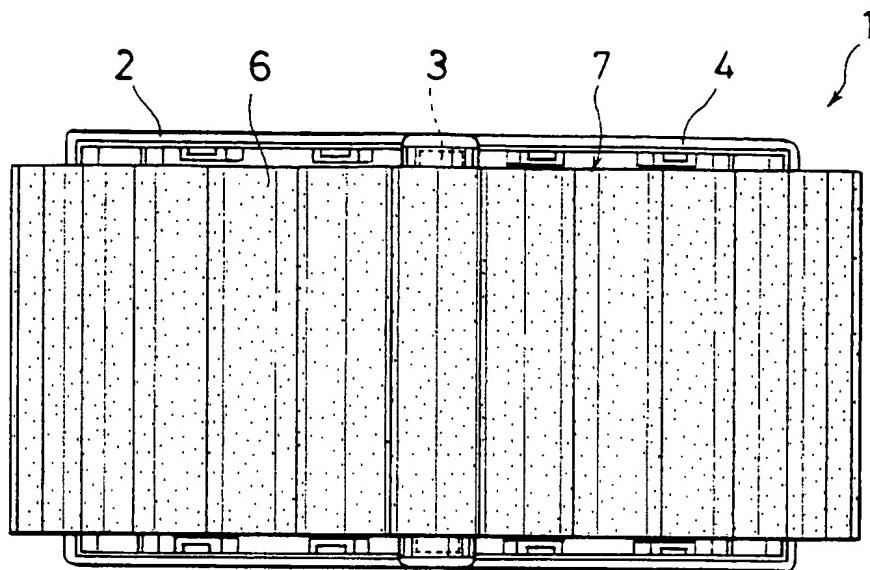
【符号の説明】

- 1、1A、1B、1C、1D、1E：揮散器、
2、2A：容器本体、 3：ヒンジ部材、
4、4A：開閉蓋、 5：係止具、
6：常温揮散薬剤、 7、7A：揮散体、
8：一方の取付け部、 9：ケース体、
10：取付け部、 11：回転軸、
12：支持軸、 13：他方の取付け部、
14：支持筒、 15：スプリング、
16：グリース、 17：係止片、
18：係合部、 19：操作片、
20、20A、20B、20C、20D：カバ一体。

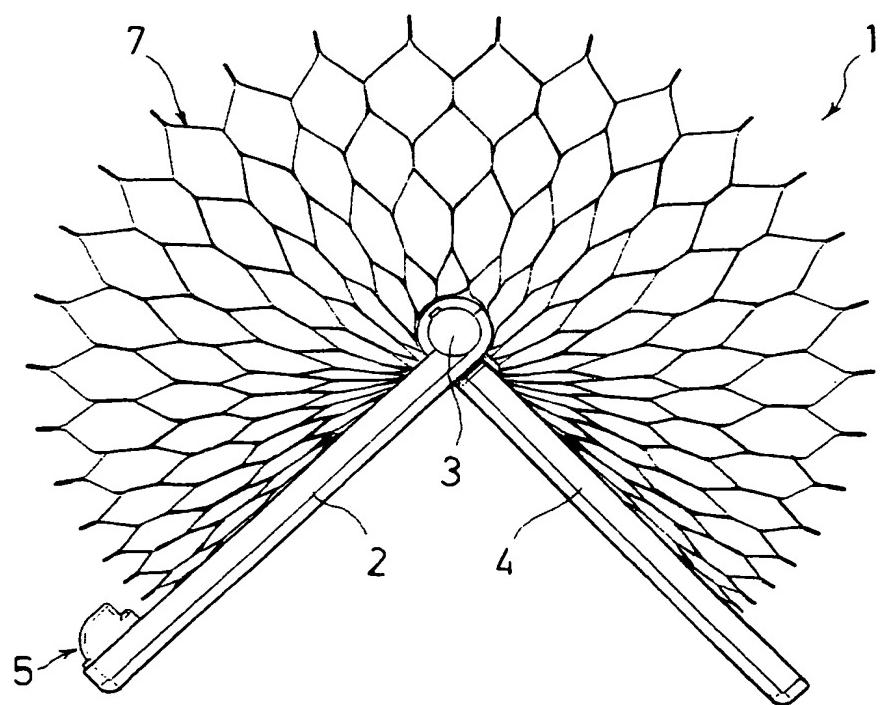
【書類名】

図面

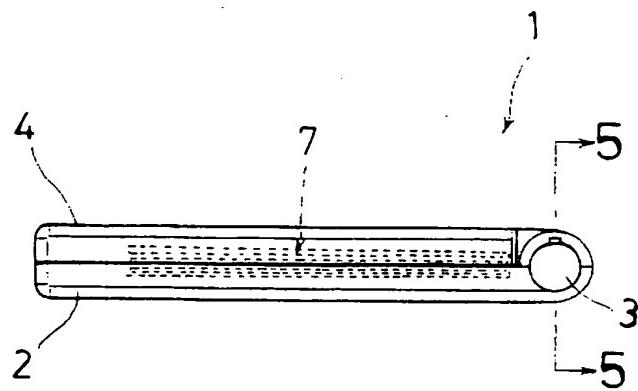
【図1】



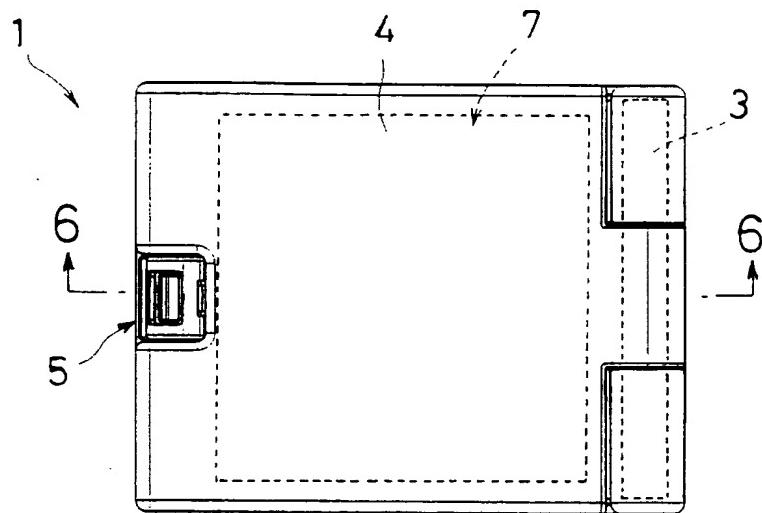
【図2】



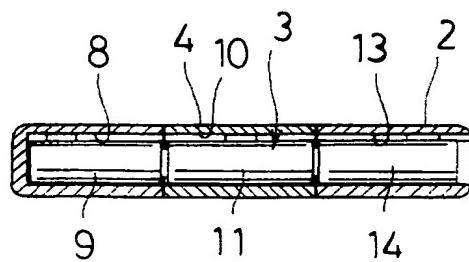
【図3】



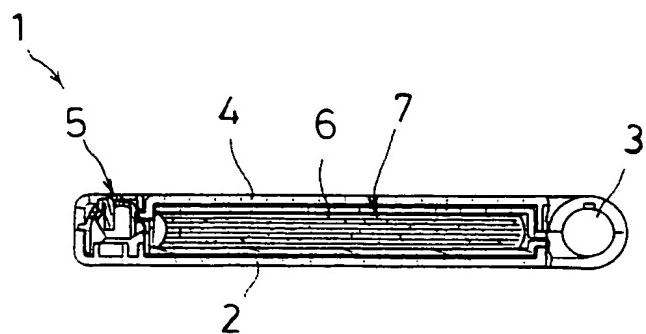
【図4】



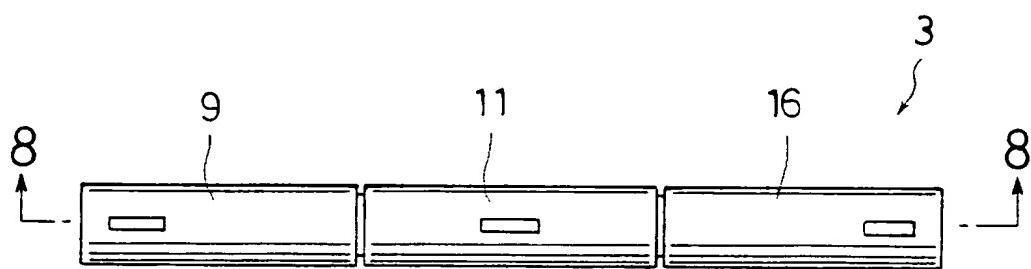
【図5】



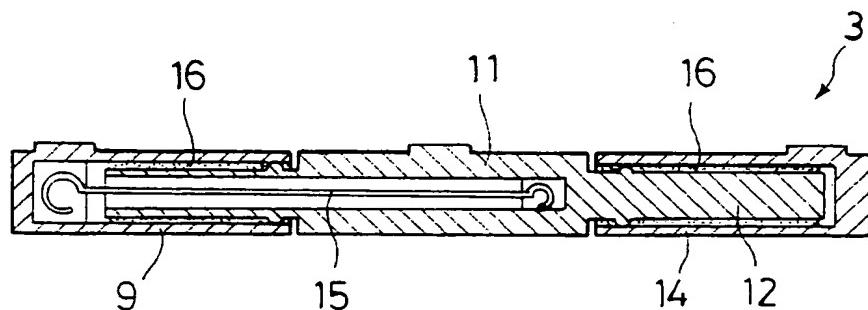
【図6】



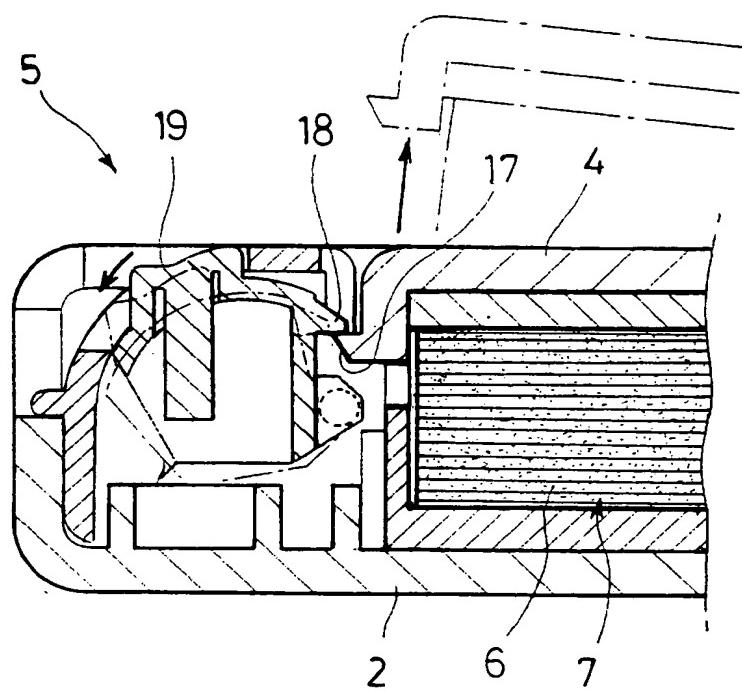
【図7】



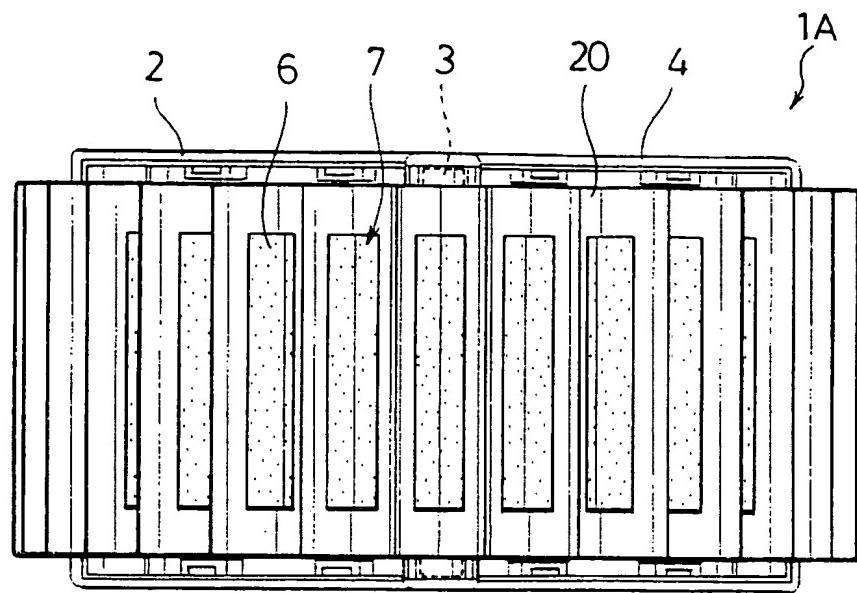
【図8】



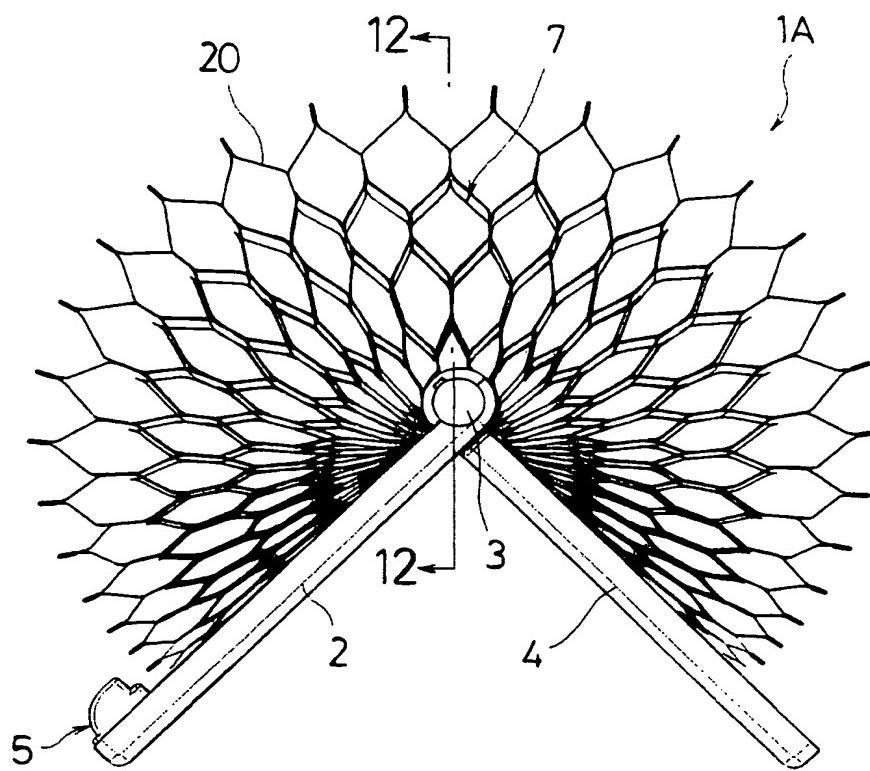
【図9】



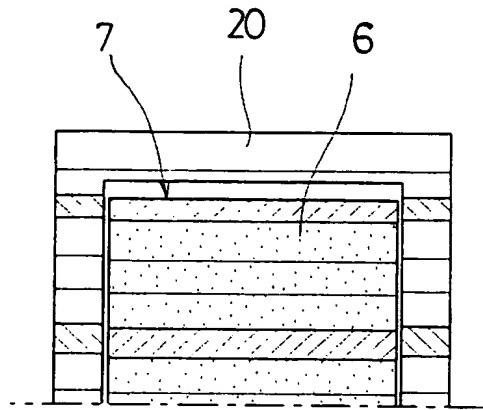
【図 10】



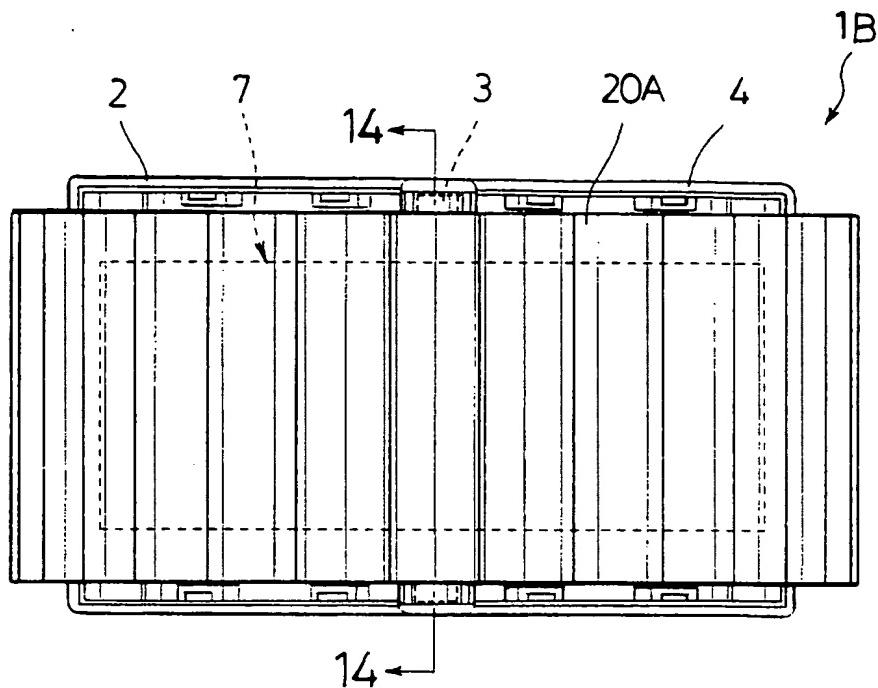
【図 11】



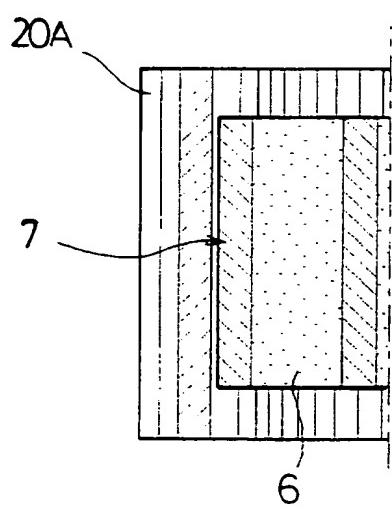
【図12】



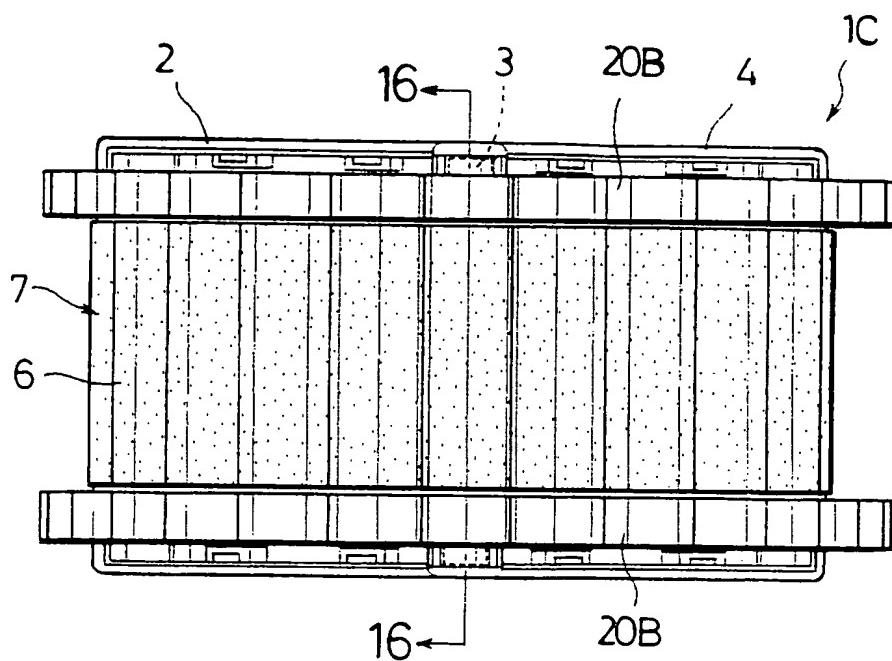
【図13】



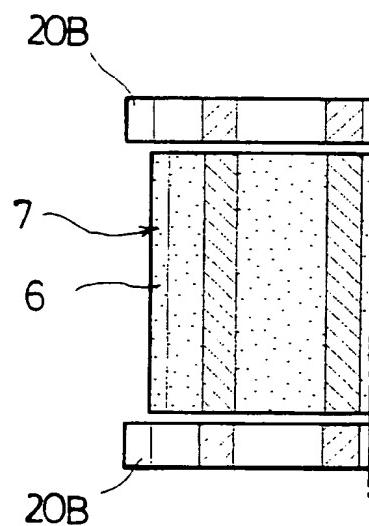
【図14】



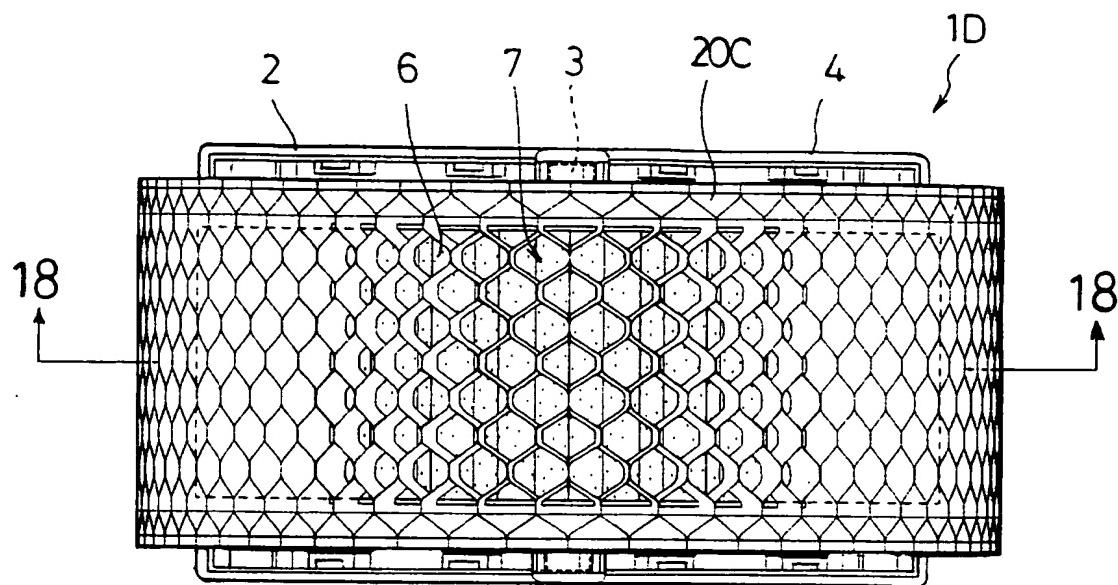
【図15】



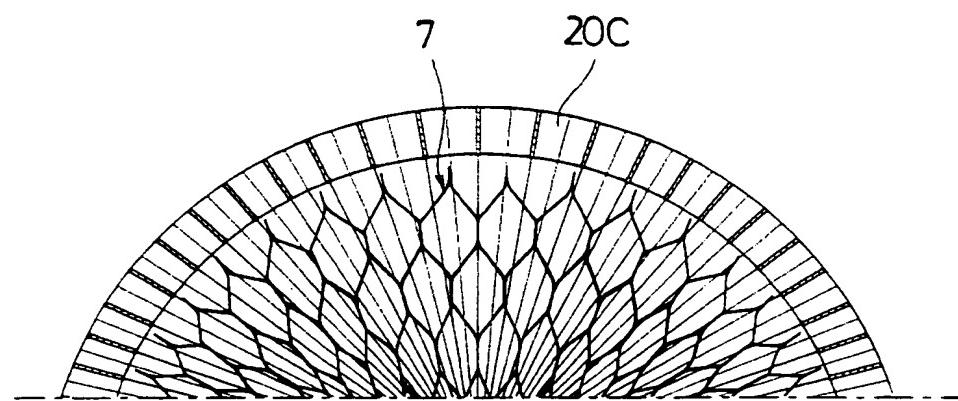
【図16】



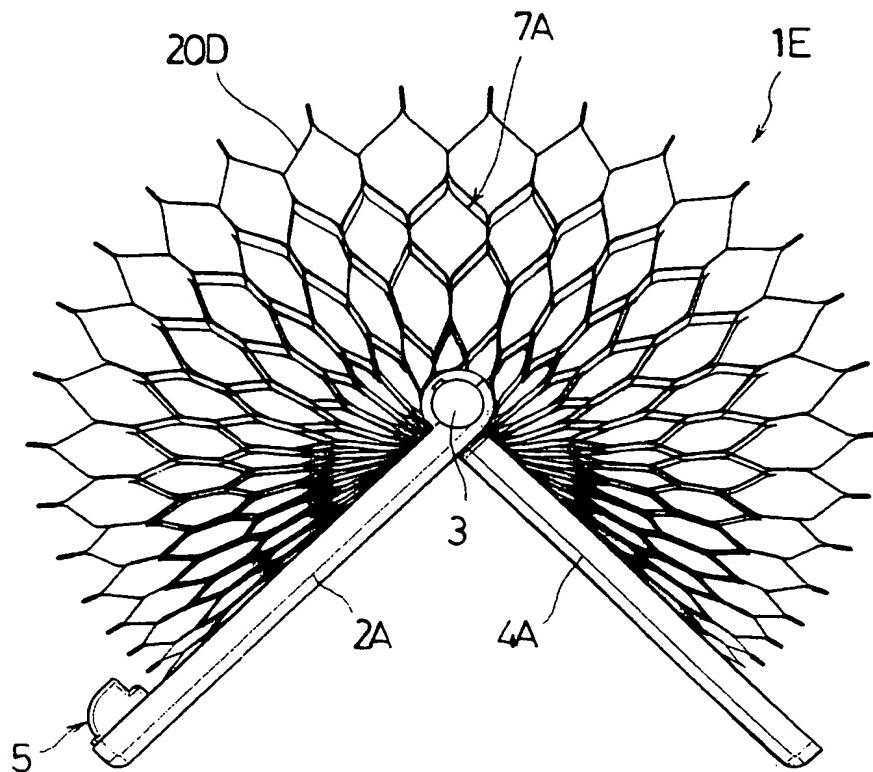
【図17】



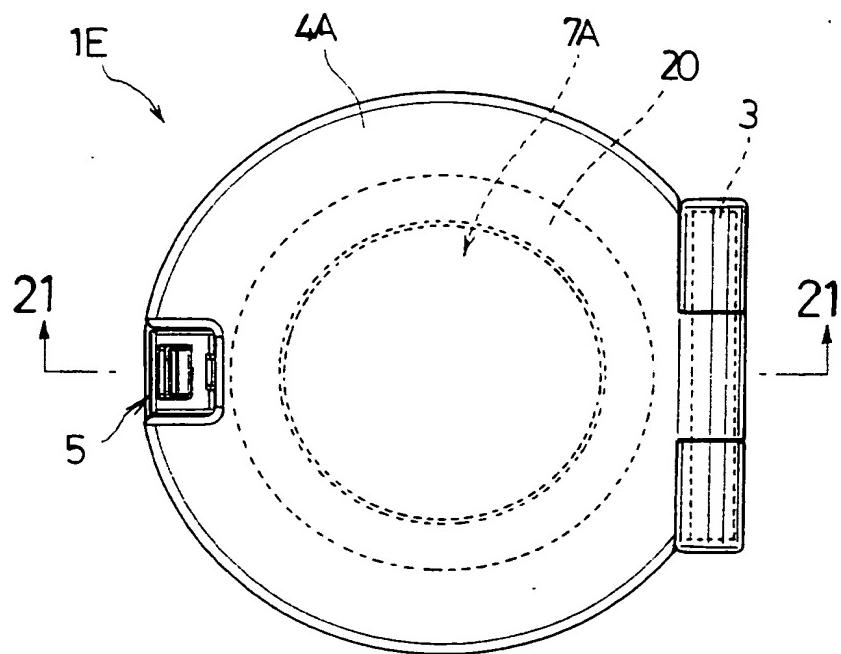
【図18】



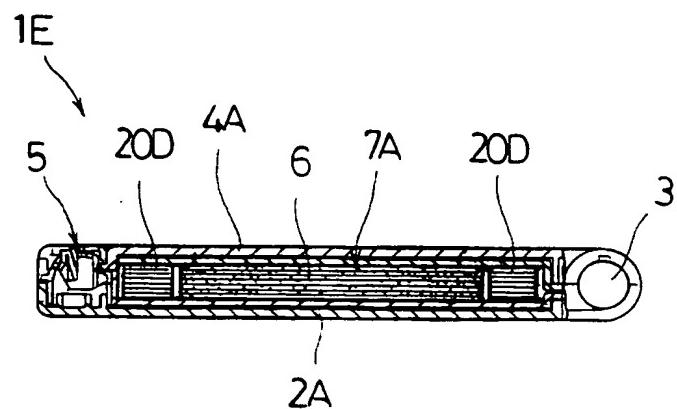
【図19】



【図20】



【図21】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 本発明は係止具を解除することにより、自動的に開放状態となるようにして、揮散薬剤が塗布あるいは保持された積層ハニカム状の揮散体に指先等が触れることなく、安全で楽に取り扱うことができる揮散器を得るにある。

【解決手段】 容器本体と、この容器本体に開放できるよう開放方向に付勢されて取付けられた開閉蓋と、この開閉蓋を閉状態に前記容器本体に係止する係止具と、一端部が前記容器本体内に固定され、他端部が前記開閉蓋の内壁面に固定された、消臭剤、芳香剤、防虫剤等の揮散薬剤が保持された積層ハニカム状の揮散体とで揮散器を構成している。

【選択図】 図2

認定・付加情報

特許出願の番号 特願 2002-374901
受付番号 50201964946
書類名 特許願
担当官 第四担当上席 0093
作成日 平成15年 1月 9日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成14年12月25日

次頁無

出証特 2003-3100650

特願2002-374901

出願人履歴情報

識別番号 [000153719]

1. 変更年月日 1990年 8月17日

[変更理由] 新規登録

住所 東京都台東区東上野2丁目21番14号
氏名 株式会社白元